

事務局長在任中、新採用の教員の方々から、建学の理念について、より具体的な説明を求められることが度々あった。もう四半世紀前のことである。

当時本学は、学部学科の改組転換を成し遂げ、学外から多くの教員を招いた時期であった。本学の基幹であった仏教学部を廃止し、人間学部を創設したことから、必要な人材を外部に求めたために説明する機会が生じたというわけである。

本学は、1926（大正15）年、大乘仏教思想に基づく「智慧と慈悲の実践」を建学の理念として創立された大学である。この建学の理念について、「智慧」とは、単なる知識の修得ではなく、人として生きていくうえで心の根を持つこと。

「慈悲」とは、「仏心とは、大慈悲はれなり」（『観無量寿経』）と説かれているように、他人を慈しみ労る心根を持つことである。心を育て育む教育に仏心を覆いかぶせ、豊かな学びへと繋げてほしい、と

「智慧と慈悲の実践」 を目指して



先生方に説明した。また、仏心を育て育む教育には、心を見つめ、心を見守り、心に思いをいたす、そんな確かな手がかりがあり、単なる手法・手段ではなく、目指すべき目標・目的となるものであるから、とも説明した。

この時の教育改革を契機に、本学は大きな変貌期を迎えた。創立時からの主目的であった、設立仏教四宗派（天台宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・浄土宗）の後継者養成を堅持しつつ、社会に開かれた大学を目指し、ソフト・ハード両面の改革を進めたのである。

そんな中、2015年、創立90周年の区切りを終えたところであるが、大学を取り巻く現在の厳しい状況下、当面は100周年に向けて、さらなる展開・発展を図るべく、学生中心の視点に立った教育の実践に、学内一丸となつて取り組んでいる。

こうした観点から、常時心に留めている。

ること、職責を果たす上での強い思いは、次のようなことである。

一つには、中・長期的な諸課題と喫緊の課題については、どのように仕分けをして、十全に意を尽くし得るか対応すること。二つには、具体的な事項については大雑把に、しかも柔軟に粗筋・概要の全体的な把握に努めるとともに、細かいミスや遺漏の生じないよう、委細に及んで気配り・目配りして、いかに配慮するかということ。三つには、そうした場面・状況に応じた適宜適切な舵取りの難しさを、実際に当たってどのように克服していくかということ——といったところである。

おかげさまで、学生諸君も明るく元氣なキャンパスライフを謳歌していると確信している。仏教精神の行き渡った学風の中で、学生一人一人が、社会人としてわきまえるべき基本的な素養をしつかりと身に付けていくことを、強く願っています。

岡本 宣丈 ● 学校法人大正大学理事長

る。そのためには、全教職員が学生の視点に立った配慮を心掛けることと肝に銘じている。

そのためには、何よりも教職員と温かく心を交わし、手を取り合って和合精神を発揮し、努力することに尽きる。そこに自ずから建学の理念である仏教精神をよりよく活用し、前向きな歩みとしていく道筋が開けてくるものと考えている。

本学はいま、開設2年目の地域創生学部と、その前年からスタートした地域構想研究所をベースとして、地域社会との連携・交流に強く心を向けている。そのキーワードは「智慧と慈悲の実践」であることは言をまたない。その具現化のため、他学部の学生を含め、学生諸君が地域社会に溶け込んで、地域の人々と語り合い、心を結びあつて、それぞれの地域とそこに暮らす人々との絆を深め、学生自身の社会人力・人間力の育成に結び付けられればと願っている。